

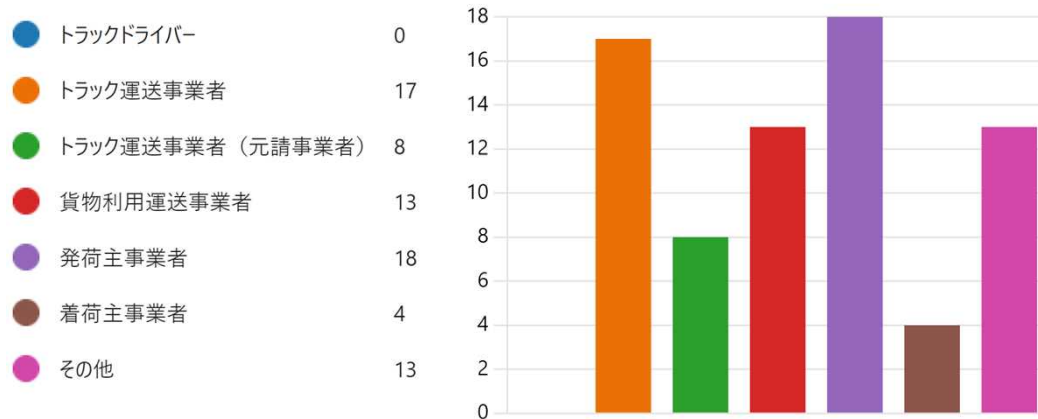
- ① 最近のトピック（各省報道発表資料等）
- ② 前回参加いただいた皆様のご感想**
- ③ 事前にいただいた問題意識等共有
- ④ 2024年問題の背景、物流への影響、政府・国会の動き
- ⑤ 荷主対策の深度化(働きかけ、トラックGメン等)
- ⑥ トラックGメンの積極的対応(近畿運輸局からの活動報告)
- ⑦ 標準的な運賃・標準貨物自動車運送約款について
- ⑧ 原価計算・運賃交渉について
- ⑨ 参考資料紹介**
 - ・ 2024年問題への対策（政策まとめ、国会質疑等）
 - ・ 働きかけ・要請の実施事例
 - ・ 物流効率化に向けた取組み事例紹介
 - ・ 物流・トラックに関する分析データ(自動物流道路に関する検討会資料)

参加者の反応（第8回 [4/26日開催] のアンケート結果より）

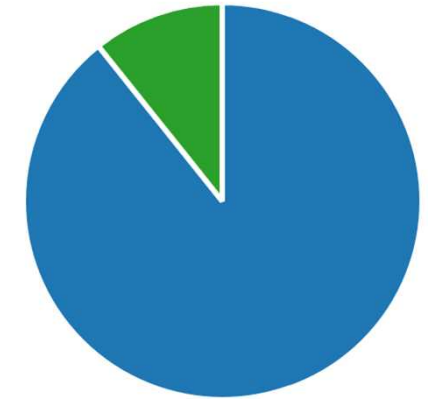
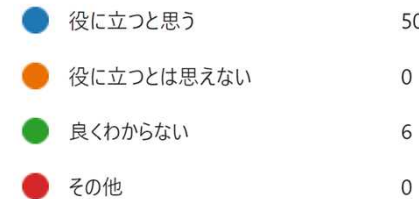
説明会参加人数 約241名※、アンケート回答数56件（回答率23.2%） 5/17時点

※運輸局関係者除く

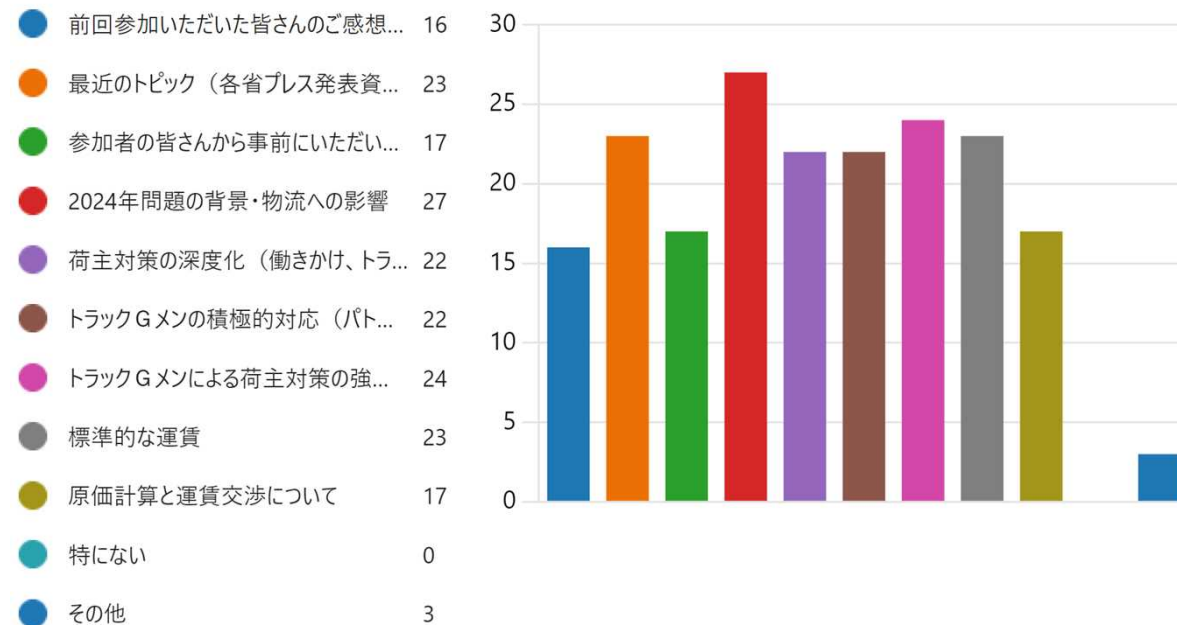
○回答者（複数回答あり）



○活用度「今回の説明内容は今後業務に役立ちそうか？」



○興味深かったテーマ



具体的な感想

- 新しい法制度の動きを知らなかったもので、これを機会に気を付けていきたい（トラック運送事業者）。
- 荷主の「物流（荷動き）」に対する考え方が概ね理解できた（トラック運送事業者）。
- 運輸局主催で且つ匿名のこともあり、荷主や同業他社の率直な意見を聞ける貴重な場だと思う（元請トラック運送事業者）。
- 荷主の立場から、2024年問題の注目度、行政の取り組み内容が理解できたので、輸送業者様との関係を構築しないといけない事が腹落ち出来た。（発・着荷主事業者）。

具体的コメント（一部）

Q. 運賃改定交渉、業務効率化に関してご提供いただける情報があればお寄せください（成功例、失敗例どちらでも結構です。）。

A. トラック運送事業者の皆さんから

○**運賃交渉に時間が掛かりすぎて**、上がっても上げ幅が数パーセントでしかない。

○今一度温度帯車輛の実態をクローズアップをマスコミも含めて行った方が良いと考えます。**温度帯運送企業は、大手の傘下で担われている実態は、一般よりも顕著です。川上の大手温度帯運送企業は、マスコミを通じて食品関係企業とタイアップして、良い面だけをクローズアップしてマスコミ等でのPRをしている実態**があると感じています。

A. 元請トラック運送事業者の皆さんから

○**荷主も価格交渉に対してはやむを得ないという姿勢を感じる業務効率化に関してはピンときていない**

○**荷卸し時間指定の交渉 → 運賃改定交渉の順で実施**

○**着荷主に理解をしてもらい交渉した事で運賃交渉だけでなく今後何が問題になるのかを共有出来た。**

A. 荷主事業者の皆さんから

○**燃料サーチャージ導入**に関して、我々荷主から運送会社に対して導入の話を持ち込んでも、運送会社側から、**業務負担が増える**ことを理由に消極的な姿勢を示されることがあった。今後、お互いに担当者が変わって、燃料費に関する考えが変わることも想定されるため、今回のタイミングで人に左右されない「仕組み」にしていくことの重要性を説明し、燃料サーチャージの導入を進めることができた。

○**ドライバー様の連続休息時間確保**の為、出発時間の前倒し&出発時間までの荷物が間に合わなかったら高速道路使用(荷主負担)を行った。